

(様式1)

整理番号		-					-		-		
------	--	---	--	--	--	--	---	--	---	--	--

平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」申請書(様式)

申請の形態	① 単独 2 共同	設置形態	1 国立 2 公立 ③ 私立
大学・短期大学・ 高等専門学校名	東京農業大学短期大学部		
所在地	〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1		
設置者名	学校法人 東京農業大学		
学長の氏名	大澤 貫 寿		

申請区分	教育課程の工夫改善を主とする取組	取組期間	平成20年度～22年度		
取組名称 (全角20 字以内)	学生と教員の協働による学科横断的実学教育 副題(サブタイトル)				
取組学部等	短期大学部				
申請の分類	教養教育	<input type="radio"/> 専門基礎	キャリア	外国語	<input type="radio"/> 体験活動
	職業教育	ICT	成績評価	<input type="radio"/> 初年次教育	補習教育
	高大連携	FD・SD	地域活性化	知的財産	環境教育
	その他()				
キーワード (5つ以内)	個別対応、動機付け、フレッシュマン演習、農業体験実習、学生と教員の協働				

ふりがな	ふじがき じゅんぞう	所属部署名	短期大学部 部長	
取組担当者	藤垣 順三	及び職名		
住所(勤務先等)	〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1			
電話番号	勤務先：03-5477-2468	FAX番号	勤務先：03-5477-2628	
e-mailアドレス	fujigaki@nodai.ac.jp			

ふりがな	ひらいで かずま	所属部署名	学習支援課 課長	
事務担当者	平出一馬	及び職名		
住所(勤務先等)	〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1			
電話番号	勤務先：03-5477-2225	FAX番号	勤務先：03-5477-2750	
e-mailアドレス	kazuma21@nodai.ac.jp			

取組の概要【1 ページ以内】

本短期大学は生物生産技術学科、環境緑地学科、醸造学科および栄養学科の4学科から構成され、実際的専門職業に重きを置く大学教育により良き社会人を育成することを目的に、創設以来一貫して実学教育を実践してきた。しかし、18歳人口の減少による「大学全入時代」になり、多様な入試制度により入学する学生間の学力較差は以前にもまして大きくなっている。このような入学生の多様化に対応するには、教育カリキュラムも個別対応できるような多様性を有するものが望ましい。また、4学科が互いに協調することにより、学生が自分の専門分野の位置付けを明確にでき、本学の教育体系に素早く溶け込めるものが望まれる。

本プログラムは、従来の教育カリキュラムを全面的に見直し、総合教育科目の拡大と専門基礎科目の充実を図りつつ全体をスリム化したカリキュラムの構築を行う。本カリキュラムの特徴は、①リメディアル教育の実施、②初年次教育の強化、③学科横断的な専門教育科目の実施、および④キャリア教育の充実である。これらを通じて高校教育から大学教育へのスムーズな移行を試みると共に、個々の学生が自身の将来の進路を見据え、目的を持って勉学に取り組む動機付けを強固にさせる。その基盤の上に、急速に変化する現代社会に対応可能な実際的専門職業教育を教授することにより、学生が幅広い視野と知識を獲得できると考えられる。

本プログラムの実施に当たっては、クラス担任制度をこれまで以上に充実させ、フレッシュマンセミナーやフレッシュマン演習などにおいて、講義でのノートの取り方やレポート作成法など勉学に関するものからマナー講座やキャリアデザインなど学生の生活や進路設計に関する事項にいたるまできめ細かに指導する。教員には新たな取組に対応できるようFDプログラムとして、「魅力ある講義を実施するための教授法」や「個々の学生の相談に対応するためのカウンセリング法」などの講習を受講させ、そのスキルアップを図る。

また、従来は多くの学科目を配し、これを学生が自由選択するタイプのカリキュラムであったが、本プログラムでは個々の学生がクラス担任と自分の進路などについて十分話し合い、それぞれの進路に対応した専門科目の設定やその履修モデルを構築した上で学習するシステムを導入する。さらに、4学科横断的専門教育科目として、農業体験実習やマイスターセミナーなどを新設し、農産物の生産から消費にいたるまで生活に関わる広範な教育を、学生と教員が協働しながら進めていく。これらの実施に当たっては、学ぶ主体である学生が自分達の学びたい内容について積極的に教員と協議し、実習やマイスターセミナーの運営にも関わり、学生と教員の協働により、学生の教員に対する距離感を縮め、本学の教育への移行が一層スムーズになると共に、大学生として自ら積極的に学ぶ喜びを体感することにより、その後の学科の専門教育においても高い教育効果が期待される。さらには、学科の専門だけでなくより広い見識を持った生産者や技術者になることが期待される。

本プログラムにおける到達度評価や内容改善は、①GPA値、②卒業研究、あるいは③学生の満足度などを指標として教育支援委員会が行う。すなわち、GPA値については、平均GPA値やGPA値分布をもとに「卒業認可GPA値」を算出し、これに基づいて卒業認定を行う。また、卒業研究については、その成果を論文としてまとめさせると共に発表会を実施し、評価する。さらに、プログラム全般にわたる学生の満足度をアンケートにより調査し、これをもとに以後のプログラム内容の改善と実施計画を策定する。

以上、実学教育に関わる様々な取組を計画、試行、厳正な評価、および改善を繰り返し実施することにより、本学独自の実学教育に裏打ちされた幅広い教養と専門知識を併せ持つ専門職社会人の基礎作りを2年間で行うものである。